

◆ 3文で「設計」ができる生徒を育てるために（教師の指示の例）

生徒は、教師が思っている以上に、話したいと感じています。

ただ、「どう始めればいいのか」を知らないだけなのです。

やり方さえ分かれば、どの子も必ず取り組み始めます。

だからこそ、教師が最も気をつけなければならないのは、子どもたちを過小評価してしまうことです。教師の何気ない一言に、その姿勢はにじみ出ます。生徒はそれを驚くほど敏感に感じ取り、「どうせ、やっても無理なんだ」と、学ぶ前から一步引いてしまいます。

その点、最小単位で取り組む3文作文は、受け身で始まりがちだったこれまでの学習を、大きく方向転換させるターニングポイントになります。どの生徒にとっても見通しの立つ、明確な“入り口”を用意する指導だからです。

教師の仕事は、勢いに任せて話させることではありません。3文という構造で支え、設計で支えることです。

やがて、文脈をつくることに慣れてくると、3文は5文に、そして10文へと自然に広がっていきます。それに伴い、友だちが書いたものを「読んでみたい」という気持ちも芽生えてきます。書くことと、書かれたものを読むことが往還し始めたとき、学習は一気に双方向性を帯びます。

この流れをさらに発展させたものが「リレー・ノート」です。

その具体的な指導については、『だから英語は教育なんだ』『ヒューマンな英語授業がしたい』（いずれも研究社）、および『英語教育』（大修館書店・2023年3月号）で詳しく紹介しています。実際に取り組むと、クラスの空気が確実に変わっていくのを実感できるはずです。

このPDF資料では、具体的にどのように進めていけばいいか、授業の進め方、教師の指示の例などをご紹介します。

◆ 授業で導入する場合の進め方 — 教師の指示の具体例 —

① 趣旨の説明（３文で身近なことを書く。練習ではなく「小さな話」を作ることを強調）

Today, you will write three sentences about something in your life.

This is not just practice.

You will make a small story.

One sentence is for grammar.

One sentence is for thinking.

The last sentence makes the context.

② ルールの説明（基本文は１文だけ。他は思考用）

Use today's grammar in only one sentence.

The other two sentences are for your ideas.

Grammar is a tool.

Your thinking is the main part.

③ 目的・場面・状況を意識させる（「誰に」「何を伝えるか」を明確にする）

Before you write, think:

“What do you want your friend to know?”

Is it interesting?

Is it funny?

Is it important?

You are not writing for the teacher.

You are writing for your friend.

④ 思考・判断・表現を促す（because / so / however を必ず入れさせる）

Please add one reason, one feeling, or one result.

Use:

because ... / so ... / however ...

These words make your English come alive.

⑤ 書き始めの合図

Okay, now...

Three sentences.

Start writing.

Take your time.

Think first.

Use the Mandala Chart, expand your ideas, then write.

⑥ 途中でのサポート（机間巡視時：文法ではなく「中身」を聞く）

- Nice start.
- Why?
- Tell me more.
- That's interesting.
- What happened next?
- Good grammar. Now, add your feeling.

※「何を書いているのか」を聞くことを最優先にする。

⑦ ペアでの共有（協働的な学びへ。見る視点を与える）

Now, please share with your partner.

Read your three sentences.

Listen carefully and find one good point.

After listening, say:

“I like your ...”

“Your idea is interesting.”

⑧ 全体共有（モデル化）

Can I read one good example?

Listen carefully.

This is a good model.

（After listening）

Did you hear the reason?

Did you hear the feeling?

This is context.

⑨ 家庭学習への接続（ルーティン化するための一言）

For homework, please write three sentences again.

About dinner.

About your club activity.

About your weekend.

Three sentences every day.

Your English will grow.

⑩ 締め (useを強調)

Today, you didn't just study English.

You USED English.

◆ この順番は、英語を「作業」ではなく「意味のある使用」に変えるための設計です。以下、①～⑩の流れを追いながら、その意図を解説しておきます。

① 最初に「趣旨」を伝える理由 — 何をやるかより、何をつくるのか —

最初に伝えるのは、「3文を書きなさい」ではありません。「これは練習ではない。小さな話 (small story) をつくる。文には役割がある」という活動の意味づけです。ここを飛ばすと、生徒は「例文を3つ並べる作業」「正解探し」として取り組み始めます。逆に、最初に「物語をつくる」「伝えるものがある」と伝えることで、生徒の頭は内容 (中身) 側に向きます。

② 次に「ルール」を示す理由 — 文法を“主役”にしないため —

あえて、ここで「文法を使うのは1文だけ」と制限します。これは、文法を軽視するためではなく、文法を安心して使わせるためです。若手教師がよく陥るのは、「文法も大事、内容も大事」と言いながら、結果的に文法がすべてを支配してしまう状態です。「文法は道具」「主役は考え」と明確に線を引くことで、生徒は安心して内容を広げられるようになります。

③ 「目的・場面・状況」をここで入れる理由 — “誰に向けた英語か”を先に決める —

書き始めてから「誰に伝えるの？」と聞いても、もう遅いです。だから、書く前に問いかけることが大事になります。「友だちに何を伝えたいのか、それは面白いこと？ 大事なこと？」これは、評価のためではありません。視点を定めるためです。「先生に見せる英語」から「誰かに伝える英語」へ軸足を移すための重要なステップです。

④ because / so / however を後から入れない理由 — 思考を“後付け”にしないため —

よくあるのが、「書けた人から、理由を足してね」という指示です。これでは、理由は「飾り」になります。最初から、理由、気持ち、結果のどれかを入れると決めることで、生徒は考えながら書くようになります。discourse marker (つなぎ言葉、接続詞など) は単に文をつなぐ道具ではなく、思考を前に進めるエンジンです。

⑤ 書き始めを急がせない理由 — 英語は、書く前に考える —

「はい、書きましょう」と急がせてしまうと、生徒はすぐに止まります。ですから、Think first, Expand ideas, Then write. という順を明示します。マンダラチャートなどの思考ツールは、書くための準備であり、立ち止まることを許す足場です。

⑥ 机間指導で文法を聞かない理由 — 教師の問いが、学習の方向を決める —

机間指導中に「その文法は合ってる？」と聞いた瞬間、生徒の意識は正誤に戻ります。だから聞くのは、Why? Tell me more. です。教師が内容に関心を示すことで、生徒は「中身を大事にしているんだ」と理解します。

⑦ ペア共有で「良い点」を探させる理由 — 比べるのは正解ではなく、価値 —

ここで評価させません。させるのは、発見です。「ここがいい、この考えが面白い」という視点が育つと、教室は「間違いを避ける場」から「考えを持ち寄る場」へ変わります。

⑧ 全体共有を“モデル化”にする理由 — 教師の説明より、仲間の事例 —

教師が「今の良かった理由は…」と説明するよりも、Did you hear the reason?と問い返す方が、生徒の理解は深まります。モデルは完成形ではなく、「あ、こうすればいいのか」という気付きの材料です。

⑨ 家庭学習につなげる理由 — 特別な活動で終わらせないため —

この活動の価値は、毎日できることにあります。「特別な題材はいらない、身近なことでいい、3文でいい」というメッセージで「授業だけの活動」ではなくなり、英語は学習から「身近な生活」へと近づきます。

⑩ 最後の一言が持つ意味 — 学びの名前を変える —

最後に「You used English.」と言い切る理由は一つです。3文で文脈を作る活動を、勉強、練習ではなく、言語使用（use）として生徒の中に残すためです。

これらの順番は、「3文指導の手順」ではなく、生徒が迷わないための順、思考が止まらないための順、英語が“意味”を持つための順です。順番を守ることは、型にはめることではありません。学びの流れを守ることです。